

Title	The History of History, by James T. Shotwell, Vol.I, 1939
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1941
Jtitle	史学 Vol.19, No.4 (1941. 3) ,p.141(725)- 142(726)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19410300-0141">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19410300-0141</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 書評

### The History of History, by James T. Shotwell. Vol. I, 1939.

ショットウワル教授の表題の新著第一巻は氏の舊著「史學史入門」全一卷の改訂版であつて、後者には邦譯はないが漢譯は既に出來てゐる。美國紹特韋爾原著何炳松、郭斌佳合譯西洋史學史(商務印書館民國十八年刊)がそれである。新著に於ては舊著の章節を改編し、本文に於ては卷末の一節(歴史の解釋)を第一章に移してその第二節となし、新に一節(神の國)を卷末に書き加へ、寫眞版二葉を増加し、且つ章節の終りや脚註に掲げてあつた文獻を一括して卷末の一章となし、新著の目的に添うやうその數を大に嚴選削減してある。

本文は大體舊著をその儘採用し、諸處にその後の新研究による補訂改竄を加へてゐる。例へば舊著四六頁に於て從來の史學者がマイヤー及びプレステドの説から出發して、エジプト曆に於ける新曆の一月一日を西曆紀元前四二四一年七月十九日であるとしたのを、プレステドが生前にこれを四二三六年に改算したことや(本誌十六卷三號餘白録參照)、他のエジプト學者達がこれをはずつと若く見てピラミッドの時代である紀元前二十八世紀に引き下げたことなど(新著六九頁)を記してある。

舊著は元來氏の鑑修せる Records of Civilization: Sources and Studies 叢書中の第一巻とあつて Hellenic Civilization, by G. W. Boissford; History of Franks, by Gregory Bishop of Tours, Selections, trans. by Ernest Brehaut; The Book of the Popes (Liber Pontificalis), trans. by L. R. Loomis. などと共に刊行せられたものである。

新著の序文にも示してある通り、米國に於ける考證史學の新運動は第一次世界大戰の前十年間に成年期に達してゐたのである。十九世紀末にヨーロッパ歸りの米國の史學者は諸大學に於ける歴史教育の改革に手を染め、諸圖書館に次第に根本資料が増加するにつれ、米國に於ても證據を用ひて史學演習を行ひ、歴史の科學的研究が競はれる様になつた。學校の教科書の改訂や根本資料の翻譯文を以てする選集などが出來、記憶するものとしての歴史から證據の検討や批判に學生の注意を向け、直接生ける過去との接觸に愉快を感じしめる様になつた。この歴史教育の革新時期に於て指導的最高の地位を占めたものは、當時コロンビヤ大學にあつて「新史觀」を唱へた James Harvey Robinson 教授であつた。氏は米國學生の語學上の困難を除くために、ペンシルヴェニヤ大學の E. P. Cheyney 及び Dona Munro 教授と共に Transactions and Reprints from the Original Sources of European History なる叢書を刊行し、次いでロビンソン氏の教科書として評判の良い名著西洋史入門が刊行せられた。(木村重治氏の西洋史眼上下二巻は本書に負ふ所が最も大である。)氏はその必携書として Readings を編し、古代史の資料集としてはボツフォード

氏のそれを生むに至つた。この運動と關聯してショットウエル教授は前記の文明記録叢書を計劃した。しかるに米國が世界大戰に參戰するに至つた結果果も軍國の事務に携はることとなつたので、その七卷を刊行しただけで中斷してゐたが、この刊行の事業はその後コロンビア大學で繼承せられ、目下 Austin P. Evans 教授の下に續刊(約四十卷)せられつゝある。

舊著はそれ等の資料及び批判的著作に指針を與へんとするにあつたが、その間に於ける米國史學の發達は本書の目的を一變せしめ、新著に於ては書目解題の案内は一層完備せるその後の諸著に譲り、主として修史の歴史を説くことになつた。しかし修史は『變化する社會の單なる反映に過ぎない』とする氏の史學史はその名を超えるものであるが、ハーバード大學の W. S. Ferguson 教授が評してゐる如く(A. H. R. Vol. XLV. pp. 849—851)その目的は十分に達成せられてゐる。前には不戰條約の起草者であり今はコロンビア大學の國際關係史を擔當する教授が、この好著を擴大して中世及び近世の部分に對しても續刊し得るに至つたことは、我等の大に欣びとするところである。(間崎万里)

ヘロドトス著 歴史 (ヒストリアイ) 上卷  
青木 巖 譯

アリストテレイスの研究家、青木巖氏がヘロドトスの歴史の翻譯に取かかられたと聞いたのは此の春のことであつたと思ふが、僅か數個月にして早くも前半を上梓された其の速度に一驚させられたものは筆者一人ではあるまい。氏のギリシヤ語に關する蘊蓄

は既に人の知る所、譯文も極めて平易である。泰西史學の最古の古典たるヘロドトスの書、當然有つべき其の譯書を終に此處に得て我等古典を愛讀する者は言葉に言ひ盡せぬ大きな喜びを覺える次第である。

歴史の父と言はれるヘロドトスの書はベルンハイムの所謂物語風の歴史であり、ニーチエの言葉を藉りて言へば記念碑的な歴史であるかもしれぬ、其處には單にギリシヤ民族の記憶があるのみで意志がないかもしれぬ、然し最古の東西争闘史を描く其の書は同時にギリシヤ民族そのものが眞のギリシヤを發見した時代の貴重な記録をとどむる書物として、其の史的價値は無限なものである。我々に當時の興味ある幾多の材料を提供してくれる此の書の一讀は凡ゆる史學研究家にとつて必要缺くべからざるものであることは言を俟たぬ。今、此處に忠實平易な其の邦譯を得て誠に欣快に堪えぬものがある。

最後に強ひて難を言ふとすれば誤植が少くないことである。殊に前半に於てその多くが認められる様である。本書の如き出版に於て其れは特に遺憾である。

なほ譯者の勞を謝すと共に其の健康を祈り、下卷の出版を鶴首待望する次第である。生活社刊、定價金四圓八拾錢也(昭十五、十、二十二、近山金次)

蒙古學報 第一號

(蒙古研究所  
研究部發行)

多年蒙古民族との親善提携に力を致すと共に、「善隣協會月報」